

御難賛助の御誓約と知瑠恵

平成十九年四月十八日（観音さま遺伝子のご命日）

知瑠恵と此の生命津について

この生命界は知瑠恵の恵の重ねにより【生えて生やす生れて生む、食べて食べられる】
輪廻転生の食物連鎖の神仕組みによって、誕。生したので御座います

この生命界にあつて、人間が未来永劫に照り輝き行くのには、大自然界の恵から発している知瑠恵を生かし、欲から発している知恵は使用せず、知恵で知ったことは、此の生命界には出さず、知瑠恵の恵に生きる時に、この生命界を護り切ることが出来るのです。

従つてこの生命界は総ての生き物が、皆交配（結婚）して子孫を生み育て残すことが出来る環境の国造りが根本であるのです。

それが欲から発している知恵を使う事によって、大自然界を破壊し、生命界まで破壊して仕舞うことに成つて行くのです。

御難御難賛助の御誓約とは

日輪太陽（父なる神）によつて、練り阿弥生み出（田）された
生命の源 「丹ノ素」が、初めて宇宙産十三示元津の
なる神（）により、植物・動物・人間の丹生丹生魂遺伝子
初めて生命と誕生した国が、丹波の国「日本国」で御座います。

今から七百二十万年前の事であると仰せで御座います。一番最初に宇宙産十三示元津にあ

ります「天王平（宇宙産（うちゅう）の子宮）」に御座います【天の意和戸】をお出になる
時に、丹生津の神と約束したのが、御難賛助の御誓約でありました。
その御誓約とは、例えどんなに苦しく辛くても飽（あ）く迄もお互いに良く話し合い、共々
に賛助し合うことが出来る、天と地を結ぶ七十六音南無の霊現言霊を授けられた民族の霊
魂を、大和靈魂と言ひ、その靈魂（たましい）の持ち主を大和民族と申し、神の御意志
「御難賛助の御誓約」に背いた時に、腹を切ってお詫びをする仕来りを有して来た民族で
御座居ます。

昭和天皇は「二度と戦争をしない」御難賛助の御誓約「大和靈魂」をもつて、連合国に無
条件降伏され、「この先日本国・国民を如何にすればよいか」を神佛と皇祖皇宗
（人間の祖先さま）の御霊におすがりに成れば、皇祖皇宗の御霊は「二度と戦争をし
ない」を条件に、九条不戦・熱田の神霊に産霊をされた事が、日本国憲法の第一条に天皇
の御位を、憲法第九条に御難賛助の御誓約が具現したのでございました。
従つて日本国憲法の第一条と第九条は、神佛の大御意志であり、全世界に掲げられた世界
の憲法第一条と第九条であります。

今、日本の国では、この世界の平和憲法第九条を改定せんとする動きがありますが、二代
にわたる国民統合の象徴天皇が【憲法を遵守する】と仰せになり、全世界に掲げた世界憲
法第九条を改定する事は出来ないのです。
先の大戦は、意のままにならぬ孝明天皇を暗殺して、権力の意のままに成る天皇を勝手に
擁立して、天皇の名の元に権力の為の権力政治を作り出し権力の為の戦争を次々とした
事が、御難賛助の御誓約に背き、その罪として日本全国土を焼失し、広島長崎に世界で始
めての原子爆弾の投下の憂き目に遭つたのは、その権力政治を止め得なかつた大和民族の
責任であり、総切腹の刻を戴いたのであります。

此の日本国憲法第一条・第九条は、日本国だけで制定した憲法ではなく、連合国・世界の

国々が関与させられた神佛の大御意志）の御誓約でございます。

従って特定の国の意向によって、改定する事は許されないのです。「全世界の国々の同意なく改定するときは、今度は原子爆弾ではなく、日本列島が核戦争の戦場となる」と仰せになり、大和民族が総切腹することになるのです。

このような事態をさけるには、象徴天皇のお詞に従い、貫き通さねばならぬのです。神佛のおみこころ
ことば
の大御意志であります日本国憲法、特に九条を換えて「世界に動乱をもたらし、自らして自滅する事はないのです」と仰せで御座います。
みすか

追伸

憲法改定を国民投票ですという政府の方針に、日本国は大和民族・大和靈魂をもつて、
やまとみんぞく・やまとだましい

世界の憲法第九条の改定を拒否して、世界の平和国家として、神の大御意志
おみこころ

（知瑠恵と御難賛助の御誓約）を世界に宣布しようではありませんか。
しるめぐみ こなんさんじょ うけひ

合 掌